

平成 30 年 5 月 28 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370481

研究課題名(和文) サイン表現における対人配慮の日独比較研究

研究課題名(英文) A Contrastive Analysis of Politeness of Sign Expressions in Japanese and German

研究代表者

西嶋 義憲 (Nishijima, Yoshinori)

金沢大学・経済学経営学系・教授

研究者番号：20242539

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、第一に、日本とドイツの公共空間にある機能的に等価なサイン表現(看板などに印字されている言語表現)を収集し、第二に、そのサイン表現を対人配慮(ポライトネス)に関して比較し、対人配慮が各言語に現れているのか、現れているとすれば、どのように具現化されているのかを明らかにすることにある。対応するサイン表現を分析した結果、明確で直接的な情報提供が期待されるサイン表現においてさえ、日独両言語とも、それぞれの好ましい対人配慮の表現方法があることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research is (1) to collect functionally equivalent sign expressions in public spaces in Japanese and German, and (2) to compare them with respect to politeness to reveal whether and how politeness is formulated in sign expressions in each language in relation to explicitness. Based on the findings, it is pointed out that each language has its preferred styles of politeness, even for sign expressions, which are expected to give relevant information or instructions to passengers in a clear, direct manner.

研究分野：社会言語学

キーワード：対人配慮 サイン表現 日本語 ドイツ語 対照 ポライトネス

1. 研究開始当初の背景

看板など印字されている定型的な慣用表現(サイン表現)は、公共性の高さの度合いによって、表現形式が異なるようだ。たとえば、公共の駐車場では「駐車禁止」や *Parken verboten* のように形式的にも意味的にも日独で共通性の高い表現が使われる。他方、個人住宅前では「入り口につき駐車ご遠慮ください」や *Einfahrt freihalten* といった表現が見られ、共通性の度合いが低くなる。この傾向は、対人配慮の観点から説明ができそうである。すなわち、看板などのサイン表現であっても、公共機関が不特定多数を相手にする場合と個人が不特定多数を相手にする場合で、対人配慮の意識が変化して、それが言語表現に現れると考えられる。そこで、本研究の目的を、サイン表現に見られる配慮行動の日独比較に設定した。

2. 研究の目的

本研究は、平成 23~25 年度科研費研究の成果を発展させるものである。目的は大きく 2 つある。第一に、日本とドイツの対応する公共場面などで見られるサイン表現(看板などに印字された言語表現)を収集・分析し、対人配慮が日独それぞれの言語表現においてどのように具現化されているのか、その相違点と類似点をサイン表現の機能と場面に関連づけて典型的に明らかにすること。第二に、日独両言語について明らかにされたサイン表現の配慮形式の類型的差異は、日常的なコミュニケーションにおける配慮行動の日独差に対応しているかどうかを検討し、視点を含めた対人配慮の各言語の志向性(好まれる言語表現)の違いを検証することにある。

3. 研究の方法

本研究の目的は、日本とドイツの対応する公共空間に設置されている看板などのサイン表現を利用して、日独で同一の機能を果たすと考えられる定型的な言語表現を、主にフィールドワークにより収集・分類し、対人配

慮という観点から日独の異同を明らかにしようとするものである。まず、対人配慮行動の対象研究のための基本的な枠組みを設定し、それに基づいて日本語資料の収集と分類を行う。次に、対応するドイツ語資料の収集と分類を行う。そして、日本語の資料とドイツのそれを上記の枠組みを使って対比する。

サイン表現として収集するデータは、公共場面に見られる看板に書かれた定型表現に限定する。定型化された言語表現は、一般に不特定多数の人々が利用する公共空間(道路、公園、小売店などの店舗、観光施設など)と、もっぱら特定の人たちが利用する空間(学校、大学、協会など)そして、特定の個人が居住する空間の 3 種に分けて収集する。これは、サイン表現を対人配慮という枠組みで分析するための措置である。

サイン表現は、日本とドイツの対応する特定の場面に設置されている場合、基本的に共通の機能を有していると判断できる。日独両言語表現を機能別に分け、統語論的、語彙論的、意味論的特徴を対比する。このような情報に着目して分析、比較することで、対人配慮の仕方の違いを視点、明示性、具体性、といった観点から明らかにする。

資料としてのサイン表現を収集するにあたって、さまざまな公共施設や公共交通機関に直接出向いて、サイン表現を、デジタルカメラを用いて撮影し、その表現を文字化してデータ入力する。首都圏や地方都市を中心に街をフィールドワークする。

4. 研究成果

まず、サイン表現を利用した比較の合理性を主張するために、比較可能性について考察を行った。すなわち、言語の対照の際、翻訳が利用されることがあるが、そのような翻訳を用いた比較は比較可能性という観点から問題があることを明らかにした上で、より客観的な比較のためには、機能的に等価で、なおかつ、自然な表現どうしを比較する必要が

あることを提案した。そして、機能的に対応する表現どうし比較するための枠組みを設定するために、「収集場所の区分」と「収集対象とするサイン表現」を明確に規定した。サイン表現は、日本とドイツの対応する特定の場面に設置されている場合、基本的に共通の機能を有していると判断できる。また、対応する場面において、対応する表現が無い場合もある。そこで、サイン表現どうしの詳細な対応が可能な枠組みを利用して分類し、対応関係を確認した。

日本やドイツのサイン表現には、英語が付されていることがある。たとえば、日本語とドイツ語ではそれぞれ「立入禁止」と *Zutritt verboten* というが、それに *Keep out* という英語が記されていることがある。このような英語による説明を共通する意味情報として、日独両言語表現が等価であることを確認することもできる。その際、意外にも、日本語とヨーロッパ言語のドイツ語・英語という対立ではなく、むしろ、日本語・ドイツ語と英語という対立もあることに気づかされることもある。

ドイツでのフィールドワークによって収集した資料を分析したところ、基本的に、英語で頻繁に見られるような命令形は使われないことがわかった。多くの場合、*Ein- und Ausfahrt freihalten* といったように不定句の形で表現が形成されている。これは、人称を具体化しないための方策であると考えられる。

収集した日独の対応するサイン表現は、(a) 禁止 (Prohibition)、(b) 案内 (Information)、(c) 指示 (Instruction)、(d) 警告 (Warning) の 4 つのタイプに分類できる。本報告では、(a) 禁止の例の一部を取り上げて説明する。英語の *No parking* に相当するドイツ語と日本語のサイン表現は、それぞれ *Parken verboten* と「駐車禁止」である。日独ともに「トピック コメント」に

よる同等の情報提示形式を用いている。その意味で、このペアは、形式的にも意味的にも等価な表現と言える。しかし、英語の *No smoking in lavatory* と等価な例は、ドイツ語 *Im Waschraum nicht rauchen* と日本語「化粧室内禁煙」である。両者は意味情報に関しては同じであっても、形式に関しては異なる。ドイツ語は、形式的に不定詞が最後におかれた不定詞句である。日本語は、「駐車禁止」と同じ形式である。両者とも、命令形は使用されていない。次の例はどうであろうか。英語の *No cigarette disposal* に相当するドイツ語は *Nicht für Zigaretteneabfälle* であり、日本語は「吸殻を捨ててはいけません」である。ドイツ語は吸殻をすてるには不適切であることを述べる表現であるが、日本語は「いけません」という形式を用いた丁寧な命令文となっている。

こういった分析から、サイン表現は、公共性が高い場面におかれた場合は、ポライトネス (待遇度) よりもむしろ明示性に重点が置かれた表現がとられる。逆に、公共度が弱まり、個人的な場面では、明示性が犠牲になり、むしろ待遇表現がとられるようになる傾向が認められた。

これまでの調査は、機能的に対応し、なおかつ、意味がほぼ同等な定型表現の比較を中心に行ってきた。ところが、機能に関しては対応するが、伝達される意味情報においてかなり異なるサイン表現の例が確認されている。たとえば、エスカレータ前に掲示してある「お乗りの際は手すりにおつかまりください。黄色い線の内側にお立ちください。降りる際はお足元にご注意ください」と *Benutzung auf eigene Gefahr* (ご利用は自己責任で) では、エスカレータを利用する際に、日本語では細かく具体的な指示がなされているが、ドイツ語では単に自己責任で利用するように述べている。逆に、バスなどの急停車に対する注意喚起では *Beim Bremsen*

Griffstange festhalten (ブレーキの際、握り棒につかまること)と「急停車する事がありますので、ご注意ください」というように、ドイツ語のほうが具体的に指示している場合もある。このような事例は、視点や場面における配慮では十分に説明できそうにない。このような違いを調査すべく平成 29 年度 (2017 年度)科学研究費補助金を申請したところ、採択され、継続的に研究できる基盤が確保された。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

西嶋義憲:「機能的に等価な日独対応表現の比較 比較の合理性をめぐって」. In: 『社会言語科学』第 21 巻第 1 号, 2018 (印刷中).

西嶋義憲:「日独新聞記事の文体比較のために 日本語らしい報道とドイツ語らしい報道」. In: 金沢大学国際基幹教育院外国語教育系『言語文化論叢』第 21 号, 2017, pp. 83-98.

NISHIJIMA, Yoshinori: “Different Strategies in Apologetic Situations: A Contrastive Analysis of Functionally Equivalent Routine Formulas in Japanese and German.” In: *Intercultural Communication Studies* 25(3), 2016, pp. 156-167.

NISHIJIMA, Yoshinori, TAO, Lin, & YOON, Sumi: “Teinei (丁寧), Limao (礼貌), and Kongson (恭遜): A Comparison of Japanese, Chinese, and Korean Concepts of Politeness.” In: *Intercultural Communication Studies* 25(3), 2016, pp. 134-155.

NISHIJIMA, Yoshinori: “Different Perspectives in Communicative Normalities: A Contrastive Analysis

of Functionally Equivalent Routine Formulas in Japanese and German.” *Atiner's Conference Paper Series* (LNG2015-1918), 2016, pp. 1-12.

西嶋義憲:「公共サインにおける言語表現の日独比較 新しい言語比較の手法の提案とその有効性の検証」. In: 日本独文学会中国四国支部『ドイツ文学論集』第 47 号, 2014, pp. 32-46.

NISHIJIMA, Yoshinori: “Politeness in Sign Expressions: A Comparison of English, German, and Japanese”. In: *Intercultural Communication Studies* 23(2), 2014, pp. 110-123.

NISHIJIMA, Yoshinori: “A Contrastive Analysis of Traffic Signs in Japanese and German: The Difference of Perspective”. In: 『文体論研究』第 60 号, 2014, pp. 17-32.

[学会発表](計 11 件)

NISHIJIMA, Yoshinori: “Young People are Getting More Polite: Change in Use of Evaluating Concepts of Communicative Behavior in Japanese and German.” Paper presented at the 14th Meeting of German-Japanese Society for Social Sciences, Osnabrück, Germany, 15. March, 2018.

西嶋義憲:「機能的には対応するが、意味情報の異なるサイン表現の日独比較 期待される表現スタイルの違い」日本文体論学会第 112 回大会、大阪、2017 年 10 月 29 日.

NISHIJIMA, Yoshinori: “Preferred Facing Direction of Pictures: A Comparison of Traffic Signs in Japan and Germany.” Paper presented at the 23rd International Conference of

the International Association for Intercultural Communication Studies, Macao, China, 7. June, 2017.

西嶋義憲：「ドイツの避難勧告・避難指示 日本語との比較」防災のこたば研究会平成 28 年度第 3 回関西地区（特別）研究発表会、大阪、2016 年 12 月 3 日。

西嶋義憲：「新聞記事の日独比較」日本文体論学会第 110 回大会、岡崎、2016 年 11 月 20 日。

NISHIJIMA, Yoshinori: “<Seeing-through utterance> as Wordplay: Interpersonal Games in Fictional Conversation of Franz Kafka.” Paper presented at the International Conference of the Dynamics of Wordplay, Trier, Germany, 1. October, 2016.

NISHIJIMA, Yoshinori & ARAI, Kyoko: “Expressions of Disaster Prevention in Japanese and German: A Contrastive Sociolinguistic Analysis.” Paper presented at the 13th Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences, Tokyo, Japan, 9. October, 2015.

NISHIJIMA, Yoshinori: “Different Strategies in Apologizing Situations: A Contrastive Analysis of Functionally Equivalent Routine Formulas in Japanese and German.” Paper presented at the 21st International Conference of International Association for Intercultural Communication Studies, Hong Kong, 17. July, 2015.

NISHIJIMA, Yoshinori: “Different Perspectives in Communicative

Normalities: A Contrastive Analysis of Functionally Equivalent Routine Formulas in Japanese and German” Paper presented at the 8th Annual International Conference on Language & Linguistics, Athens, Greece, 7. July, 2015.

NISHIJIMA, Yoshinori: “Are Young People in Japan Getting More Polite?” Paper presented at the 9th International Im/Politeness Conference, Athens, Greece, 1. July, 2015.

NISHIJIMA, Yoshinori: “Politeness in Controlling Routine Formulas for Communicative Behavior: A Contrastive Study of Japanese and German.” Paper presented at the 20th International Conference of the International Association of Intercultural Communications Studies, Hong Kong, China, 2. August, 2014.

〔図書〕(計 4 件)

KOBAYASHI, Makoto, TROMMSDORFF, Gisela, & HOMMERICH, Carola (eds.) *Trust and Risks in Changing Societies*. Proceedings of the 13th Meeting of German-Japanese Society for Social Sciences on 8.-10. October 2015 in Tokyo. Tokyo: Committee of the German-Japanese Society for Social Sciences, 2018 (共著)(分担執筆: “Expressions Used in Disaster Prevention in Japanese and German: A Contrastive Sociolinguistic Analysis.” (新井恭子氏との共著), pp. 193-203)

SONNENHAUSER, Barbara & MEERMANN, Anastasia (eds.): *Distance in*

Language. Grounding a metaphor.
Cambridge: Cambridge Scholars
Publishing, 2015 (共著)(分担執筆:
“Ignorance of Epistemological
Distance: Rhetorical Use of
Non-evidentials in the Work of Franz
Kafka”, pp. 167-186)

中村芳久教授退職記念論文集刊行会編:
『ことばのパーспекティヴ』 開拓
社, 2018 (共著)(分担執筆:「好まれ
る画像の向き 交通標識の日独比
較」, pp. 41-55)

西嶋義憲:『カフカと「お見通し発言」
「越境」する発話の機能』 鳥影社,
2016, 202p.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

西嶋 義憲 (NISHIJIMA, Yoshinori)

金沢大学・経済学経営学系・教授

研究者番号: 2 0 2 4 2 5 3 9

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号:

(4)研究協力者

()